

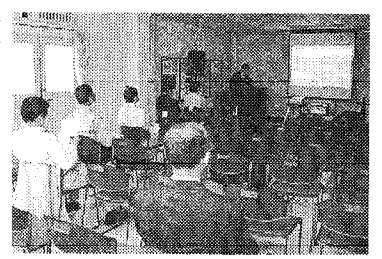
『新技術展示説明会』画であり、関心を集めた。が25、26の両日、新潟市 新技術活用、総合評価山田の北陸地方整備局北方式でも競争力に陸技術事務所特設会場でも競争力に。国土交通省のNETI開かれた「写真。公共工 S 本格運用に連携する開事等における技術活用シ 催。NETIS登録済みスラム (NETIS) に 技術は、全国で4000登録された新技術から53 案件を超えるが、今回は件を一堂に展示する全国 同局管内の登録案件からでも初めての試み。公共 53件が出展した。工物品質確保促進法 (公 25日の開会式で、橋場共工物品確法) の施行後 克司北陸地方整備局企画の総合評価一般競争方式 部長は「この展示説明会全面展開などを背景に、 を通じ、有用な技術の活公共調達技術重視へ大 用と普及や建設技術者のきく転換しており、技術 研さんに役立ててほし力による差別化の時代と い」と述べるとともに、され、時宜にかなった企 公共工物品確法に言及、

「総合評価方式では施工課題に的確に応える技術力が問われる」と指摘、品質確保に加え環境負荷軽減や工期短縮等の施工

北陸整備局

新技術展示説明会開く

NETIS登録53案件が一堂に



など。トンネルバルーンは、震災後の冬期工事を可能とし、早期の開通に真価を発揮。軽量のLXウォールも施工性の高さなどの特性を生かした。高揚程に対応出来る新製品も開発中という。新技術のデモも行われた。防護柵支柱の低騒音・低振動回転圧入工法 (秩父産業)。全国に1台という専用マシン搭載車両を展示。NETIS登録済みだが、今後、実施工による事後評価を受け実績を積むという。相談窓口も開設

分野から53案件出展

会場は、施工、材料、設計の3ゾーンで構成。施工部門では、HLI DJM工法など22案件、材料部門ではESR工法など23案件、設計部門では自己充填型高強度耐久コンクリート構造物設計施工法など8案件。開発メーカーや研究会、ゼネコン、舗装会社、コンサルタントらが出展ブースを開設。パネルや模型、映像などを使い、独自技術の特性をアピール。中越震災復旧での活用技術も展示、紹介

新潟県中越地震の復旧工事で採用された技術。国道17号和南津トンネル復旧工事の覆工コンクリートバルーン養生工法 (トンネルバルーン、西松建設・東宏)、道路擁壁などの復旧で採用されている鋼製L型擁壁 (LXウォール、共生機構)

富山県庁も参加。行政機関唯一の出展で、土木新製品開発支援事業やトリアル発注商品制度を紹介。開発支援制度は、県土木部が中心となり、工業技術センターや新世紀産業機構などと連携して実施する。「建設市場縮小を考慮し地元産業育成の視点から導入した」という。全国初の制度であり、開発から製品化のNETIS登録や技術証明までトータルな支援の仕組みを整えている。会場では、新技術登録の相談窓口も用意されており、同局では積極的な来訪を期待している。

性の向上やコストの縮減など、時代の要請に応える新技術の普及、さらなる開発に期待を示した。

施工・材料・設計の3

Xウォール、共生機構